

塚地 武雅

笑いがすべて、仕事で恩返ししています

TsUKAJI



MUGA

お笑いコンビ・ドラゴンドラゴンの塚地武雅さん、近年では俳優としても活躍の幅を広げている。「子どものころから人を笑わせることで、友達とのバランスがとれたり、居場所があったような気がする」。中学のときからお笑いの道に行きたいと思っていた。大学卒業後、一度就職するも辞表を出す。「父親は怒り狂い、母親も泣き崩れた。食えなくても誰に反対されようが、やるしかないと思った」。事務所の養成所で相方(鈴木拓)と出会い、コンビでのネタづくりが始まった。「モノマネが得意だったから、キャラクターが面白いコントをやってみた。僕の言動をずっとみてクスクス笑っているのを肌で感じて、すごく嬉しかった」。

いまや、街でその姿をみかけただけで「うける！」と笑う子ども(笑)。ある程度バックボーンを^{こしら}え、キャラを通じた表現ができるようになったのは財産。バラエティ番組でのコントの評判から俳優のオファーも来た。「お笑いとして培ったものがベースにあって、両方やらせてもらっているのはありがたい」。コンビでは作演出をし、相方に間も細かく指示する監督のような立場だが、「芝居の現場では、監督がああしたい、こうしたい、と言ったらそれが正解だと思って従う。期待に添えるかどうかだけ」。笑うことは人の安心する感情だと言う。「『悲しい』はすべての人に共通するけど、『笑う』ことは

バラバラ。全員ツボが違うのが面白い。災害や戦争のとき、一番いらんような仕事だけど、一番いるような仕事だと思う。好きなだけなんですけど、やりがいを感じてる」と、はにかむ。子どものころ、お笑いをみて幸せだった、それを今、仕事として返している気持ち。「イカ大王の着ぐるみも昔なら見た目じゃなくネタで勝負!と受け入れられなかったと思う。今は、子どもたちが目を輝かして見てくれるのが嬉しい」。「夢は、ただただ笑える、長い尺の喜劇の映画やドラマをつくること。一番の理想は、自分でやりたい。自分の面白い間は自分がわかる。常に厳しく自らの表現と向き合って、笑いを追求し続けている」。

PROFILE 1971年大阪府生まれ。1995年に芸人養成のスクールJCAに入り、ドラゴンドラゴン結成。バラエティ番組『はねのトビら』出演以降、俳優としても映画、ドラマで活躍。『間宮兄弟』(2006年)では、キネマ旬報、ブルーリボン賞、毎日映画コンクールの新人賞を受賞。NHK『LIFE! ~人生に捧げるコント~』では、イカ大王のキャラクターで人気を呼んでいる。CD『イカ大王体操第2』を発売中。